

# 8-4

## 個人の尊厳・個別の支援

認知症利用者から学んだこと

利用者の介護

職員の意識改革

特別養護老人ホーム せいようえん 青陽園

介護職員 鹿山 深雪

フロアスタッフ

東京都八王子市川口町1543番地

TEL: 042-654-4025

E-mail: main@seiyoen.com

FAX: 042-654-4086

URL: http://www.seiyoen.com

今回の発表の施設  
またはサービスの  
概要

八王子市で一番初め、東京都でも8番目に出来た特養ホームです。長期入所140床、ショートステイ20床、計160床で稼働している施設です。

### <取り組んだ課題>

ケース検討 (H・H様)

T7年生まれ 女性 89歳 介護度5  
平成15年アルツハイマー型認知症と診断される。  
物忘れがひどくなり、加えて夫に対しての暴言も見られるようになり、平成19年3月1日に当園入所となる。

- ・入所日より、特に男性に対して暴言が続く。職員がトラブル回避していくが、暴言により他利用者も不穏状態となってしまふ。
- ・ふらつきながらの徘徊が多く、職員は目を離せない為に終日マンツーマン対応をするが、大きな声で職員に対して暴言あり、一日中怒っている状態。

H様へのかかわり方及び改善策を検討した。

### <具体的な取り組み>

- ・問題行動を分析、検討。
- ・マンツーマン対応したが、状態はエスカレート。本人に加え他利用者も落ち着かなくなり、居室移動を検討。
- ・居室移動と同時にマンツーマン対応をやめ、ご本人の好きなように動けるスペースを確保していく。
- ・見守り体制の整備の為、フロア内を3分割しグループ化を徹底し、担当職員も3分割にし責任を持たせる。
- ・フロア内に食堂が2ヶ所あり、1ヶ所を2グループで利用する為に食堂もほぼグループで2分割にし、見守り範囲を細分化する。

### <活動の成果と評価>

- ・マンツーマン対応は、H様においては自由を奪われ、常に誰かに見張られているという感覚になったようで、怒りを感じる事が多く、大きな声を出して暴言や徘徊へつながってしまった。
- ・フロア内で居室移動をし、マンツーマン対応をやめ、職員がH様の様子を観察していく事で動きまわる訳がわかりはじめ。またグループ化した事で職員間のコミュニケーションが密になる。その結果職員が同じ様にH様へ対応していく事で落ち着いてきている。
- ・他利用者として笑顔で話しをされる事が多くなってきている。
- ・以前は多動で徘徊がみられていたが、今はほとんどみられなくなった。
- ・氏の暴言で不穏状態になった他利用者も、氏が落ち着き、居室移動した事により落ち着きを取り戻す。
- ・認知症利用者への対応を通じて、認知症の理解を深め、職員の自信につながった。

### <今後の課題>

- ・職員の思い込み(事前の情報などから)による利用者への対応を更に改善させていく。
- ・職員間のコミュニケーションの活用及び情報の共有化を更に向上させていく。
- ・問題行動のある利用者が入所した場合に、精神科医の助言及び指導、生活歴や行動パターンを踏まえた対策を更に向上させていく。